

第62回農林水産祭

農林水産祭は、国民の皆さんに農林水産業と食に対する認識を深めていただくために、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催して、昭和37（1962）年から実施しており、今年で62回目となります。農林水産祭では、過去1年間の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞された方々の中から、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞を選考し、表彰を行っています。今回、林産部門では58の出品財を対象に審査を行い、天皇杯に谷口淳一氏（北海道北斗市）、内閣総理大臣賞に朝香博典氏（静岡県伊豆市）、日本農林漁業振興会会長賞に有限会社下久保林業（青森県十和田市）が選出されましたので、それぞれの選賞概要を紹介します。

天皇杯

谷口淳一氏（北海道北斗市）

たゆまぬ創意工夫による

優良なトドマツコンテナ苗の安定供給



谷口淳一氏は、大正初期から続く苗木生産を先代から引き継ぎ、平成26年度からコンテナ苗生産に着手しました。令和4年度ではトドマツコンテナ苗を30万本、カラマツやクリーンラーチのコンテナ苗を合わせると約52万本を作付けしています。トドマツコンテナ苗は、植栽時の労働負荷や刈り作業の軽減が期待できる大きい規格のコンテナ苗として苗長を揃えた出荷、根鉢を生分解性不織布で包むことで梱包や輸送、植栽の際に崩れないようにするなど、現場のニーズを踏まえた技術改良を重ね、植栽する事業体から高い評価を受けています。また、ほ場や施設内の舗装化やプラスチックパレットの育苗台の導入等、合理的な土地利用や苗木生産効率を高める創意工夫にも徹底して取り組み、高い苗木生産能力の向上とともに、作業者の労働負荷の低減を実現し、働きやすい職場づくりにも取り組んでいます。

内閣総理大臣賞

朝香博典氏（静岡県伊豆市）

卓越した原木しいたけ栽培の技が生み出す最高級の「天白冬菇」



朝香博典氏は26歳から約30年、伝統的な原木しいたけ栽培技術を発展的に継承し、乾しいたけ生産量全体のわずか1%と言われるほど希少価値が高い最高級品「天白冬菇」を生産し続けてきました。

朝香氏は、藤と共生する人工ほ場環境を整備することでしいたけの発生に適した自然環境に近い栽培環境を維持するとともに、独自の乾燥技術で全国乾椎茸品評会で8回、令和に入ってから4回連続で農林水産大臣賞を受賞するなど高品質な乾しいたけを生産しています。また、専門職大学の研修生受け入れや新規参入者の技術指導も行うなど後継者の育成にも力を入れています。

日本農林漁業振興会会長賞

有限会社 下久保林業（青森県十和田市）

合理的な事業拡大と安定的な経営で
地域の林業を牽引



有限会社下久保林業は、農耕馬による木材等の運搬業を前身に昭和51年に設立され、現在は、女性や若者を含め27名の従業員を抱える地域の中核的な林業事業体として活躍しています。

計画的な路網整備や高性能林業機械の導入のほか、輸送コストの削減を目的としたフルトレーラーの導入等合理的な視点に立った投資を行なっています。また、積極的な事業拡大により、生産コストを低減するなど安定した経営基盤を築き、年間33千㎡の素材生産を行うまでに発展しており、地域の林業を牽引しています。

また、女性や若い人材の雇用にも積極的に取り組み、植栽からオペレーターまで多様な技術者を丁寧に育成することで、生産性の向上と雇用の安定化を実現しています。



「実りのフェスティバル」が開催！

テーマに沿ったさまざまな展示やPRを行いました

第62回農林水産祭「実りのフェスティバル」が、東京都豊島区で開催され、天皇杯等の受賞者の紹介とともに、各都道府県の特産物の展示・即売や、特徴ある技術や農林水産物の展示コーナーが設置され、多くの来場者で終日にぎわいました。

林野庁では、「木づかい運動でウッド・チェンジ！」をテーマに、建築物における木材利用に関する最近の動きやウッドデザイン賞を受賞した木の食器や櫛など身近な木製品を展示しました。また、今年度は「国民一人一人が、森を支える。森林環境税」をテーマに、森林環境税・森林環境譲与税のPRも行いました。

